

藤枝市教育委員会

平成27年12月定例会会議録（要約）

藤枝市教育委員会 平成27年12月定例会会議録

- 開催日 平成27年12月24日
- 場所 藤枝市役所西館5階 第3委員会室
- 会議に附した事項 (別紙のとおり)
- 出席委員
教育長 山本満博
教育長職務代理者 松浦正秋 委員 大社幸子
委員 瀧下悦代 委員 横山久男
- 欠席委員
- 出席した事務局職員
教育部長 藤村啓太 教育政策課長 山田雅己
教育推進担当係長 花澤澄子 学校教育課長 森下覚司
主席指導主事 海老岡正乃 学校給食課長 中山文敏
生涯学習課長 片山豊実 図書課長 成岡均
スポーツ振興課長 戸塚康成 スポーツ振興係長 河村憲生
総務係長 山本賢二 書記・総務担当係長 岸本倫子

教育委員会 平成27年12月定例会

日時 平成27年12月24日 午前9時
場所 市役所西館5階 第3委員会室

1 開 会 午前9時

2 会議録署名委員氏名 松浦正秋委員、横山久男委員

3 日程第1 諸般の報告

事務局

- 1 11月市議会定例会一般質問の要旨について
- 1 小中一貫教育シンポジウムの開催について
- 1 第5次藤枝市総合計画パブリックコメント案について
- 1 ふじえだロボットアカデミー講座報告並びに
コンテスト結果報告について
- 1 “ふじえだマナー愛言葉”の選定について
- 1 平成27年度藤枝市子ども会活動発表会について
- 1 おもしろくてタメになる！サイエンスショーについて
- 1 藤枝市子ども読書活動推進計画（第三次）の策定について
- 1 藤枝市スポーツ推進計画(案)について

4 閉 会 午前10時30分

教育委員会 平成27年12月定例会

日程第1 諸般の報告

事務局

- 1 11月市議会定例会一般質問の要旨について
6名の議員より一般質問有り
- 1 小中一貫教育シンポジウムの開催について
広く市民を対象に小中一貫教育についての理解を深める
- 1 第5次藤枝市総合計画パブリックコメント案について
平成28年度～ 後期基本計画が進められるにあたり
パブリックコメントを行う(12/18～1/15)
教育に関しては、藤枝市教育大綱の「3つの柱」にあわせて
「3つの政策」を策定
- 1 ふじえだロボットアカデミー講座報告並びに
コンテスト結果報告について
市内中学校6校から15名が参加
ロボットコンテストには9チームに分かれて出場
ロボコン大賞(最高賞)含め、上位4位を独占
11/28 東海大会に上位3チームが出場
- 1 “ふじえだマナー愛言葉”の選定について
小1～80代まで 2,480作品の応募あり
優秀作5作品、優良作25作品を“ふじえだマナー愛言葉”とする
優秀・優良作品は「ふじえだマナー」の啓発に活用
- 1 平成27年度藤枝市子ども会活動発表会について
市内190の子供会から、モデルとなる5団体が活動発表
- 1 おもしろくてタメになる!サイエンスショーについて
理科・科学への興味のきっかけづくりとしての取組
- 1 藤枝市子ども読書活動推進計画(第三次)の策定について
平成28～32年度までの5箇年の計画
5本の柱を核として推進する
- 1 藤枝市スポーツ推進計画(案)について
平成28～32年度までの5箇年の計画
平成26年度末に市民アンケートを実施

委員

“ふじえだマナー愛言葉”のところで、啓発に電柱広告を利用するという事ですが、とても良い事だと思います。これについて、どのように広告主を見つけしていくのですか。

事務局	電柱広告につきましては、電柱広告の会社と協定を結びまして、実際に広告主の募集は電柱広告の会社が行います。市では選定作品を情報提供させていただくとともに、作者の通っている学校の近く等、広告する希望の場所を電柱広告会社に伝えておいて、広告主と調整する中で市内のどこの電柱に広告を貼るかということを決めていただきます。広告主は最初に看板制作費を払っていただいた後に、年間契約で電柱広告のための費用を電柱広告会社に支払っていただくので、市としては費用を支払う必要はないですが、広告による収入等もありません。
委員	中部電力がやるのだと思いますが、商工会議所等の組織につながりがありますので、そういった所に情報をいただければ賛同していただける方もいらっしゃると思います。
事務局	はい。協定を結んだ段階で皆様に募集広告をさせていただきたいと思います。
委員	会議所はつながります。
事務局	ありがとうございます。
委員	金額はいくら位ですか。
事務局	最初に設置する時に9,000円と、年間15,000円が3年分かかります。
教育長	委員がご協力いただけるということですので、是非情報提供をおねがいします。そのほかにいかがでしょうか。
委員	自転車事故の発生件数が平成26年度に2件というのは、とても少なくていいと思いますが、これはどの程度の事故ですか。
事務局	1件は車と接触して転倒して手首を折ったというものです。もう1件については、けが等はたいした事のないものでした。
委員	平成27年度は、今のところ発生していないことになっていますが、私の知人で登校途中に縁石に乗り上げて足をけがして縫った子どもがいましたが、そういうケースは件数には入っていないのですか。
教育長	自損事故についてということですね。
委員	そうです。
事務局	自分で転倒したものは、この件数には入っていません。車や人と接触した等、相手があるものだけです。
教育長	家に帰ってからの事故はもう少しあるかもしれませんが、登下校中の事故はこれだけということです。
委員	今の関連ですが、道路交通法が変わって自転車の走る通路が変わりましたが、現状、街の中を見ているとそのマナーがなかなか守られていないように感じますが、それについて学校の現場でどのように周知をしているのか、もしわかれば教えてください。まだあまり対応していないようであれば、その点を徹底し

ていくことでより安全が確保できるのではないのでしょうか。

事務局

各小学校では、必ず交通安全教室を行っていきまして、婦警の方等にも来ていただいて指導していますので、徐々に浸透してきているかと思えます。中学校については、そこは教員から指導したりしていますが、実際帰宅してから自転車に乗るような場面では、意識が薄れてしまうように感じています。これからも徹底して指導して行きたいと思えます。

教育長

全ての中学校でも交通安全教室をやっていますが、それ以外のところでも教師から説明して徹底しています。

委員

小中一貫教育について質問です。このシンポジウムが開かれるという事で、いよいよ瀬戸谷地区で地域を巻き込んで一貫教育について考える良い機会を作られたと思えます。総合教育会議でも小中一貫教育については議論をされているということで、市長からも市内の会議の中でも議論を深めているというお話で、小中一貫教育が進んでいると感じています。報道等でも、他市においてもかなり小中一貫教育が進められているような記事も読むので、藤枝市も推進をはかっている事を感じます。総合計画後期基本計画のパブリックコメント案で「小中一貫教育導入中学校区数」について、平成26年度の現状値では0のものが、目標値は中学校区で10校区にするということは、市内の全中学校区を5年間ですべてなんらかの形で小中一貫校に変えていくという事を目指しているという事だと思えます。そうしますと、たとえば1中学校区に3小学校といったところ等は瀬戸谷地区とはまた違ったシステムになると思えますし、かなりハードルが高いのではないかと考えますが、この5年間の中で全中学校区という目標を持っているという事になると、そのあたりはもう議論が進められているのでしょうか。瀬戸谷地区とは違ったシステムでの小中一貫教育についてはどのような形でお考えか教えてください。

事務局

確かに5年間で全中学校区というのは高い目標だと思えます。瀬戸谷地区のように1中学校区に1小学校というのは比較的小中一貫教育の導入がイメージできますが、複数の小学校に1中学校というのは、距離の問題もありますし、いろいろと課題も多いかと思えますが、来年度は市民の皆様や地域の皆様の理解を様々な機会を通して深めていく事と併せて、藤枝市の目的やスケジュール等の導入計画をつくっていきたくと考えています。今、小中連携ドリームプラン事業をやっています、他市に比べると小中一貫教育に向けての中学校区ごとの連携は進んできていると考えていますので、さらにそれを進めると共に、計画を作ってそれに基づき計画的に進めていくように考えています。

事務局

小中一貫教育につきましては、今後教育委員の皆様とも何度も議論を重ねていかなければならない問題だと考えています。以前、小中一貫教育について全国的な資料をお分けしましたが、スタイルとしては一体型と分離型があり、全国的に小中一貫教育が進んできてはいますが、ほとんどが分離型です。分離型とは校舎は分かれたままのスタイルです。そういう中で、瀬戸谷地区については小中が1対1で距離も比較的近いという事で、一体型を目指していますが、これも地域の皆様のご意見を十分聞く中で進めていかなければなりませんので、すぐに一体型ができるかどうかわかりません。分離型で小中一貫教育を進めて、最終的にはひとつになればいいかとも思えます。ひとつになる事で、より効果も高まるという事で、瀬戸谷地区ではそれが目指しやすいついて思っていますが、それ以外の地域でも、分離型から小中一貫教育を目指していきたいと思えます

教育長

が、そういった事でこれから藤枝市としての形を作っていくたいと考えます。

小中連携ドリームプラン事業をベースに考えていくという事で今進んでいますが、これから事務局の説明にありましたように、計画に従ってやっていきたいと思えます。

委員

まず1点目に、総合計画後期基本計画に「大人のためのピアサポート講座」とありますが、それはどういった内容か教えてください。

それから、「校務支援システム導入で余裕が生まれたと感じる教員の割合」とありますが、「校務支援システム」とはどういったものかという事と、「余裕が生まれた」という事がどういった事かということをお教えいただきたい。それが100%になるということは、教師の忙しさが解消されるという事なのかどうか知りたいと思えます。

3つ目に、パブリックコメントというのは市民の声を聞くという事だと思えますが、どのように提示して市民の皆様から意見を聞くのかやり方がわかりません。数年前に、藤枝市環境整備基本計画策定委員会というものにお出しましたが、その時に皆様のご意見を聞きながら市でまとめていった事がありますが、どのような仕組みでされているのか教えてください。

事務局

まず、大人のためのピアサポートについて説明させていただきます。平成21年度から、子どもが安心して学べる学校づくり協議会を発足して、笑顔あふれる学校づくりという事で市内一斉にそれに向けて取組を始めました。その中の具体的な取組としまして、「ピアサポート」という考えを取り入れるのがいいのではないかと協議会の意見で出まして、そこから進めています。ピアサポート学会の会長を講師に招いて、教員に対しての研修をまず設けました。これは、現在も毎年行っています。そういう中で、学校現場では異学年では上級生が下級生の面倒を見たり、同じ学年の中ではお互いに思いやりの心を持って接するという考え方や活動を全小中学校で取り入れて推進しています。そして、PTAを中心に、一般の保護者の方々にもそういった学校の取組を理解していただくために「大人のためのピアサポート講座」を開催しています。その中で、学校が取り入れている考え方やその方法、さらには大人同士でのコミュニケーションの取り方等を講師の方に教えていただいています。これを毎年1回ずつ行ってきました。平成26年度までの延人数で320名が受講していて、これを平成32年度までに延800名を目標に開催していきたいと考えています。

事務局

2点目の校務支援システムの件についてご説明いたします。今、教員の皆様たとえば出席簿や名簿の管理、成績処理等についてかなり事務仕事で時間をとられて、児童生徒と向き合う時間がなかったり、普段の授業の準備ができなかったりという状況があるという事で、教員がかなり忙しいという声が全国的からあがっていますが、この校務支援システムというのは、そういった出席簿や名簿の管理、成績処理等において、名簿を作成すると指導要録等に反映される等、かなり校務事務を効率化できるのではないかとという事で、昨年度焼津市、島田市との3市で協議会を発足して、導入を進めてきました。教員の方々の校務事務を軽減することを目的としていますので、これで余裕が生まれたと感じていただき、その時間を子ども達と向き合う時間に当てることで、教育の質を上げていくというためにこのシステムを導入しましたので、そのように感じる教員の割合が高ければ高い程、子どもと向き合う時間が増えていくのではないかとという事で、この指標をあげていましたが、実際にはこの指標について疑問に思われるとの声もあがっていて、なかなか一般の方にこの指標の目的がわか

りにくいというご意見をいただいていますので、今回この指標につきましては削除する方向で進めています。

事務局

パブリックコメントにつきましては、今回資料でお分けさせていただきましたものが、市のホームページにも掲載されています。また、公民館や文化センター、岡部支所等にも設置されていて、実際に見ていただく事ができますので、それに対してご意見をいただいて、いただいたご意見に対してまた市の考え方についての回答を公表していくという事で、市民の皆様のご意見を反映して計画づくりをしていくという方法です。

委員

小中一貫教育シンポジウムについて、瀬戸谷地区で開催していただいていると思いますが、自治会に対してはどのような働きかけをしていますか。

事務局

瀬戸谷地区につきましては、一番の地元ですのでこれからお話をさせていただくところです。後は広報ふじえだや学校を通じて周知していきます。

委員

瀬戸谷地区でも小中一貫教育に関して有志で話し合い等をしていて、そこに自治会の方からも参加していただくように依頼をしていますが、今自治会で主な役をやっている方のお子さんやお孫さんが地元にいないようで、なかなか関心がなくて距離ができてしまっている状況です。けれども、実際に小中一貫教育を始める時には、やはり自治会の役員の方々に理解していただかなければ話が進まないと思うので、この機会にシンポジウムには参加していただきたいので、是非自治会にも強く働きかけをしていただけるとありがたいと思います。

事務局

このシンポジウムは瀬戸谷地区だけを対象としているものではありませんが、瀬戸谷地区はモデルとなる所なので、特に自治会等には是非小中一貫教育がなんのためにあるかという所からご理解いただくために出席をお願いしたいと思いますし、今年度はワークショップ等積極的にやっていただいた所もありますので、瀬戸谷地区については、色々な団体に声を掛けて、できるだけ多くの方に出席していただけるようにしたいと思います。また、全市的にもなるべく多くの方に来ていただけるように働きかけたいと思います。

教育長

藤枝市にとっても、大事な小中一貫教育の方向性を決めていくところなので、教育委員の方々にもご都合がつけば来ていただきたいと思います。そのほかにかがでしょうか。

委員

藤枝市スポーツ推進計画（案）の「サッカーを核としたまちづくり」のところ、色々な場面で市長とお話していますが、トップチームを推進するのかそれともJヴィレッジのようなボトムアップのものを進めるのか、その辺が見えて来ないので、どちらに軸足を置くのか教えていただきたい。それから、「サッカーを活かした商業・産業の活性化」とありますが、これはどのようにイメージされているのか教えてください。

事務局

まず、育成の部分で、ボトムアップなのかトップチームなのかという所ですが、端的に言うと両者を進めます。ただ、今子ども達が各クラブに所属しているケースが多くて、行政も含めて市のサッカー協会も非常に育成という点では力を入れていただいているので、市としても今年トップアスリート育成システムというものを立ち上げて、行政と市のサッカー協会とで連携して役割分担をして選手を育成していこうという事でスタートしていますが、やはり現実的には小学生

や中学生でレベルの高い方が、既に清水エスパルスや磐田ジュビロ等のクラブに入ってしまったいて、なかなか地域で育成するというとそれ以外の中学校の部活動に所属している生徒等を育成していくシステムしかできていないのが現状です。そういった中で本当にトップアスリートが生まれてくるのかという所は色々意見があるところですが、ただそういった部分も育成していく中で、そういう所から優秀な人材もトップアスリートを目指していこうという形で進めているところです。また、藤枝MYFCもあります。今、地元からそのままMYFCに入るような選手がいないのですが、藤枝市をホームタウンとしているプロチームですので、今後クラブとも連携してそういった部分も強化していきたいと考えています。

それから「商業・産業の活性化」の部分ですが、これは商業観光課の方でもサッカーを取り入れた様々な集客の取組を展開しています。また、県が中心になってスポーツ産業という事で、サッカーだけではなく、たとえばサッカーをキーワードにした新しい商品開発等もやっています。そういう中で、藤枝市の場合はサッカーが盛んでありますし、現にサッカーを冠したお菓子や酒もありますので、そういった新たな商品を開発して産業等につなげていきたいといった取組です。

委員 藤枝市子ども読書活動推進計画（第三次）の推進体制の中で、「幼稚園・保育園、学校では司書教諭～」とありますが、この計画の中で幼稚園・保育園において強化していくということが目的や推進方法等細かく書いてありましたが、実際に学校には司書教諭が配置されていますが、幼稚園や保育園にも司書教諭を置くような計画がこれから推進されていくのか教えてください。

事務局 学校には司書教諭がありますが、幼稚園や保育園については基本的にはありません。司書専門の先生を育成していくという意味ではなく、保育園等でも園児や家庭に対して読書の大切さを伝えるために、幼稚園や保育園にできる推進の方法を、市と一緒に育てていただきたいという主旨です。現在、移動図書館については全小学校を拠点に行っていますが、市内に全部で幼稚園や保育園が35園あって、その内の21園に団体貸出という形で130冊を図書館から貸出しています。そういった時に、お話の手伝いをしたり、先生方に覚えていただいて子ども達に指導していただく等の形で推進していきたいと考えています。

教育長 資料には「家庭では保護者、幼稚園・保育園、学校では司書教諭、学校司書、図書主任～」と書いてありますが、学校には司書教諭や学校司書がいますが、幼稚園には図書主任はいるのでしょうか。

委員 そういう方はいませんので、司書教諭を配置していただけるのかと思いました。

事務局 この記載の仕方では、そのように解釈できますね。

教育長 非常に読み聞かせは大切な事でありまして、校長会等での話の中でも幼稚園や幼稚園就学前の子ども達にも読み聞かせをして欲しいという事で、この推進計画を進めてほしいというお話がありましたが、幼稚園等では読み聞かせをする時に、先生方の勉強会等はやっているのでしょうか。青島子ども園ではどうですか。

委員 毎日読み聞かせをして子ども達を返すようにしています。読み聞かせは一日2

回していますので、その先生方の研修をしています。それから、保護者の方が園に来て、年間に相当回数活動をして下さっていて、お母さん方による読み聞かせをする機会がありますので、そのお母さん方に対する研修も行って、読み聞かせを行っています。けれども、専門的に司書教諭となると園にはいませんので、そういう方を幼稚園や保育園にも配置されていくような体制をとるのかという期待をしたところです。

事務局

表記の仕方として、「家庭では保護者」「学校では司書教諭、学校司書、図書主任」と人を指していますが、「幼稚園・保育園」では園そのものを指していますので、表現をわかりやすくしたいと思います。

教育長

ともあれ、推進をして欲しいという事ですので、よろしく願います。そのほかにいかがでしょうか。

委員

藤枝市スポーツ推進計画（案）の「中学校の運動部活動の推進」の中の「部活動外部指導者活用事業」について、今現在、どの程度の外部指導者が市内の中学校の部活動で活動しているのでしょうか。専門的な指導者がきてくれれば、子ども達がもっと楽しくできるのと思うような現場がいくつか見られます。今後、指導者の増加を目指しているとは思いますが、専門家をどういった形で集めるのか、たとえば人材バンクのようなものを作るといったような事がありましたら教えてください。

事務局

今年度の外部指導者の数について、正確な数は今手元にありませんが、約60～70名ということで、各校複数名います。基本的に、この事業について、指導者は学校で探すというスタンスですので、学校が必要に応じてたとえば地域の人材や専門的な技術をもった方を依頼しますが、誰でもいいわけではなく学校との繋がりがありますので、学校での部活動の考え方等を理解いただきながら選んでいるという現状です。わずかな謝礼での対応になりますので、たくさんいただければいいとは思いますが、なかなか難しいところがあります。

委員

学校の先生は地元の方ではないので、指導者を探すのもなかなか大変だと思います。学校ごとに個々に探すには労力も大変ですし、市のスポーツ振興課には様々なスポーツの団体があると思うので、そういったところに中学校で指導してもいいという方を募っていただいたり、市として何か人材バンクのようなものを作っていただいたりするほうが、学校側も繋ぎやすいのではないのでしょうか。

教育長

今、学校の方で外部指導者を選ぶのに何か困っているといった声はありますか。

事務局

委員のおっしゃるとおり、学校の方では指導者を探すのが大変なので、市の方でなんとかお願いできないかといった声は実際にあります。その辺については、確かに人材バンクのようなものがあればそれを利用できるといった事はあるかと思いますが、おそらく県の事業にもそういった人材を確保するようなシステムがあると思いますので、そちらも調べてみます。

教育長

生涯学習課に何かバンクがありましたね。

事務局

はい。生涯学習課にはスポーツだけではなく、生涯学習全般で登録バ

ンク『それは私です』といったものがあります。その中でも、スポーツ関係もありますが、中学生を対象にしたものよりは、どちらかというと昼間や成人向け、お年寄りや逆に小さな子ども向けが多いように見受けられます。実は、生涯学習課でやっているサポーターズ事業の中で学校から指導者を要望されることもあります。コーディネーターの方が地域で手を尽くして聞いていますが、なかなか地域でもそこまでは受けられないと断られる事が多く、ご要望に応えきれない現状があります。ですから、もう少し広い範囲でそういうものが必要になってくるように思っていますので、研究を進めていきたいと考えています。もう一つは、ヤマハの清宮が正式にラグビーの監督になって県知事と話をする中でありましたが、磐田市を中心に、県でもそうした動きを始めるようなこと聞いていますので、その辺をまた参考にできればと思います。

事務局

関連しまして、指導者に関してはどの競技においても、今指導者不足の問題があるところでは、今年からスポーツ振興課ではトップアスリート育成システムを立ち上げています。本来は色々な競技に関して、選手の育成は元より、指導者、保護者の育成も視点において進めています。その中で指導者の育成について、まず今年藤枝市の中である程度成熟している団体の一つとしてサッカー協会がありますので、サッカー協会を通じて、通常の部活動以外のアカデミーを立ち上げて、様々な選手育成をやっています。その中でもそこにあてる指導者が課題になっています。学校の先生方でも、サッカー部の顧問をされている方が大勢いらっしゃるんですが、非常に多忙で、中学校の部活動をやりつつトレセンのようなアカデミーの指導をする事には非常に課題があります。今、市のサッカー協会の中で民間の方も含めて指導者の組織を立ち上げようとしています。これには先生方の中にも当然参加できる方もいらっしゃるかもしれませんが、たとえば藤枝市役所のサッカー部のOBのような人材を活用したり、民間のサッカー経験者にそういったところに登録して、指導にあたっていただいたりするような組織づくりを始めたところです。将来的にはサッカーだけではなく色々な競技がありますので、体育協会を通じて加盟団体の中で指導者の組織バンクのようなものを作っていけたらと考えていますが、なかなか加盟団体自体が組織的に成熟していないと難しいところがありますので、まずはサッカー協会を中心としたもので立ち上げようと考えています。

教育長

学校の先生も部活動の顧問として一生懸命やっていますが、なかなか忙しくて手がまわらない現状があるようです。先程の話にもありましたが、県の方でも磐田市にスポーツクラブを立ち上げて、指定管理者でやってみて、効果ができればそれが広がっていくことになるかと思います。教育委員会も外部指導者については、地域だけにまかせないように協力していきますのでよろしくをお願いします。

教育長

他にはよろしいですか。
それでは、以上で本日の全日程を終了しましたので12月定例会を閉会します。

閉 会

午前10時30分